タックルの作法　マダイとのヤリトリと的確な手返し 必要機能を高次元で満たす相棒を。

【舳（みよし）20-270】

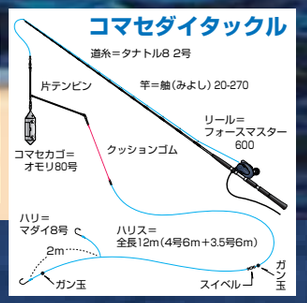
◎しなやかで粘り強い軽量タイプのUDグラス材料をスパイラルXコアとハイパワーXで締め上げた細身軽量のムーチングアクションロッド。舳調子とも言えるしなやかな胴調子で多くのファンを持つ名竿。

【フォースマスター600】

◎コマセダイでは手返しやファイトにおける巻き上げ、ヤリトリで欠かせないドラグ性能、海中の情報を伝える探見丸スクリーン、手巻き派の人にもおすすめできるハンドリングのフィーリングなど、多くの優れた機能を持っているリールです。手に持ったサイズ感はとてもコンパクトながらＰＥ3号200、あるいは2号300メートルを巻いておけばコマセダイのほかタチウオ、アジビシ、アマダイなど幅広く使えます。

●SPEC　ギア比＝6.5、最大ドラグ力＝10kg、自重490g、糸巻量PE＝2号-300m、3号-200m、最大巻上長＝67cm／ハンドル1回転、ハンドル長＝65mm、実用巻上持久力＝6kg、最大巻上速度＝195m／分、本体価格＝9万5200円

▶【タッチドライブスピードロック】
タッチドライブを押している間は巻き上げが加速し、離すと減速する機能。ファイト速を設定している場合はタッチドライブを押している間はMAXまで増速、離すと中間速に戻る。竿を一定の角度に構えてヤリトリする人にはファイト速を設定、ポンピングの巻き上げに使う際はファイト速をOFFにしてスピードロックを使うのがコマセダイでのおすすめ



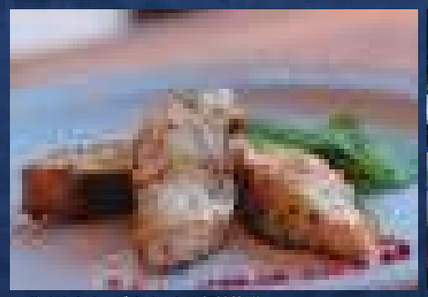
▲【探見丸スクリーン】
探見丸搭載船であれば探見丸の情報を手元に映し出せる。水深と魚影のほか、状況によりビシの反応やエサ取りの下に現れるマダイらしき反応も確認でき、タナの微調整に役立てることができる
※探見丸搭載船で使用可能

▲【NEWフォールレバー】
仕掛けのフォールスピードを調整するフォールレバーはコマセダイでの落とし込みにも対応。また、ビシを投入する際のバックラッシュ防止に非常に有効で使いやすい

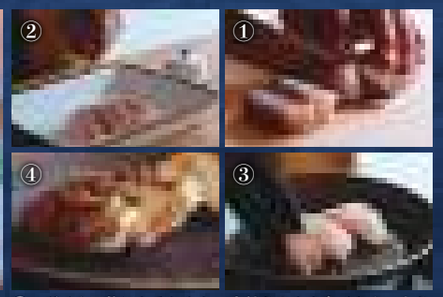
▲【フッキングモード】
静止、または、さそい速からワンタッチで最高速まで加速させてフッキングさせる機能。タチウオなど瞬時の巻き合わせが必要とされる場面や、竿先を上げた姿勢などからのワンハンドでの合わせを可能にする

▲【手巻きハイギア化＆ドラグカUP】
フォースマスター600のもう一つの顔がハイギア化による手巻き時の操作性と質感の高さ。コマセダイではコマセワーク、ヤリトリで手巻きを好む人でも十分に満足できる。また、コマセダイでの細かな調整もしやすいドラグは安心の最大ドラグ力10キログラム

食の作法　マダイのソテー
～皮目も味わう簡単でおいしい料理～



マダイはオリーブオイルとの相性抜群



①マダイを三枚におろしたら、皮付きのまま食べやすい大きさに切り分ける
②塩、コショウを適量振る。オススメは様ざまな種類のコショウが入った、レインボーペッパー
③フライパンを熱し、オリーブオイルを少し多めにひいたら弱火で皮目からゆっくりと焼いていく
④皮目がカリッと焼けたら、ひっくり返し身側をサッと焼けば完成

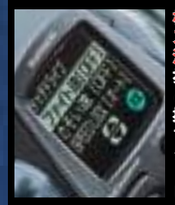
「船釣りの作法」動画公開中。
YouTubeSHIMANOTV
公式チャンネル　にてご視聴になれます。

◎ Presented by SHIMANO　　◎取材協力／内房勝山港・利八丸

コマセダイの作法
誘うというより〝探す〟探見丸を見ながらのシューティング・ゲーム。

エサ取りとも思われた上層の反応に当ててみると1キロ級が上バリに食ってきた。このとき、マダイは上ずっていた

【フォースマスター600inコマセダイ】



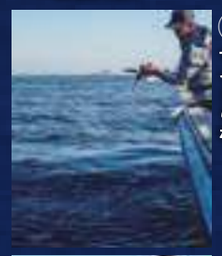
松本さんのスピードロック活用術
押した分だけ加速し、離すと減速。意のままに細かく操作するため松本さんはコマセダイではスピードロックを［オート］に、ファイト速、さそい速を［OFF］にして使用。

松本さんのタッチドライブ設定
ヤリトリでの巻き上げはドラグを効かせつつ慎重に。巻き上げ加速のモードはスローが合っていると松本さん。［タッチドライブ］→［モード設定］→［S：スロー］で完了。フッキングモードはともにOFFにしている。

【電動ポンピング】
松本さんはタッチドライブの操作性を生かしたポンピングでマダイとのヤリトリを行なっている。
※ヤリトリでは必ずドラグを緩めておく。

① ドラグを生かしつつ竿の粘りで魚を持ち上げ

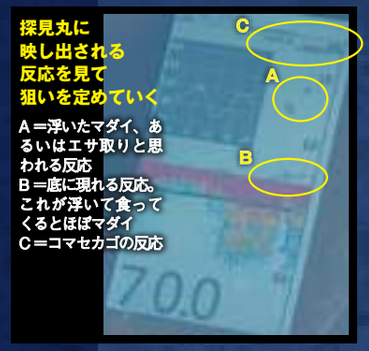
② ラインテンションを維持したまま竿を下げながらタッチドライブを押して竿の下げ幅分を巻き上げる



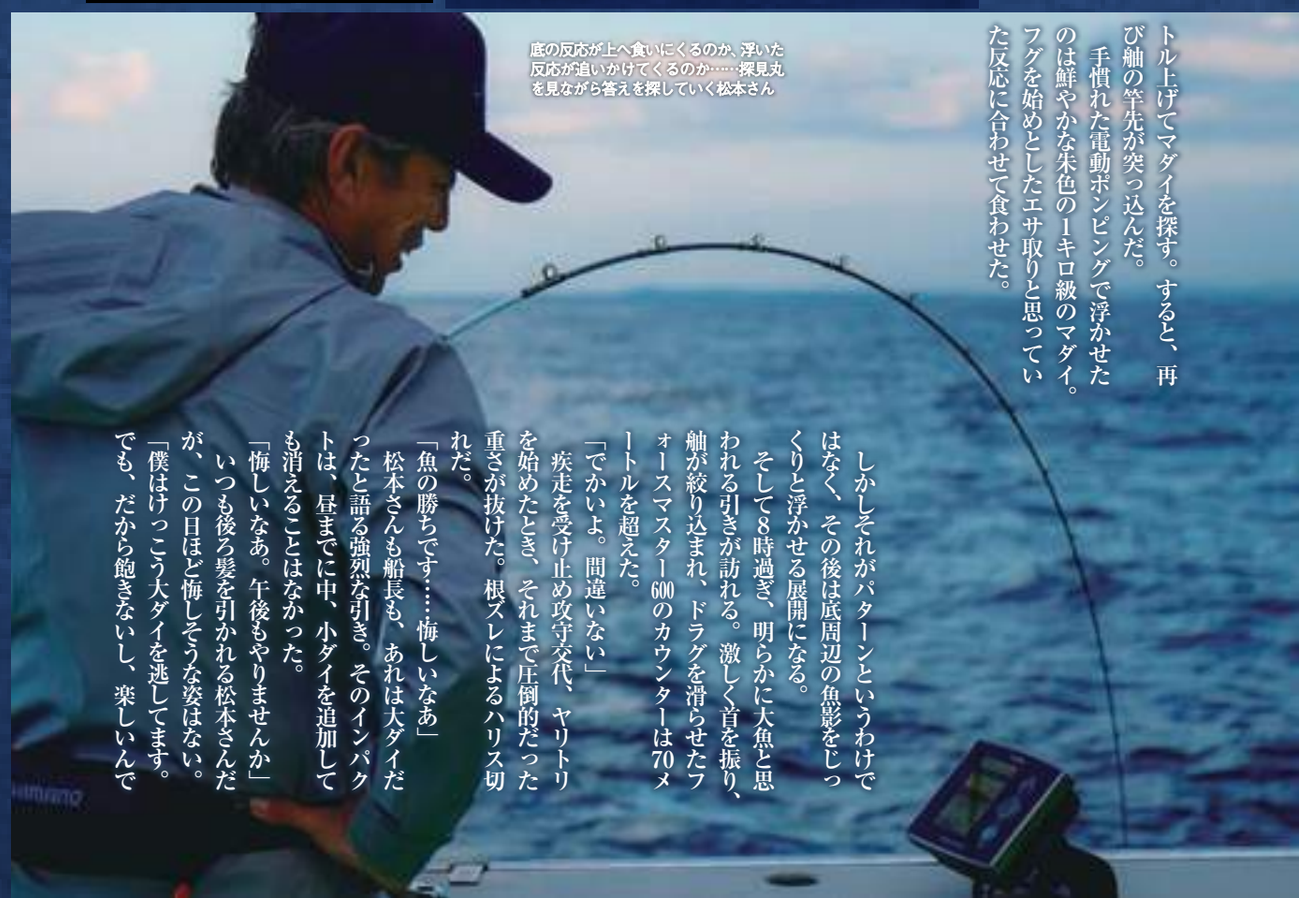
③ マダイが突っ込んだらドラグを滑らせ、竿でいなしつつ

④ ゆっくりと竿が起き上がってきたら

⑤ 再び竿を下げながらタッチドライブで道糸を巻き取る。この繰り返しでマダイを浮かせていく



探見丸に映し出される反応を見て狙いを定めていく
A＝浮いたマダイ、あるいはエサ取りと思われる反応
B＝底に現れる反応。これが浮いて食ってくるとほぼマダイ
C＝コマセカゴの反応



底の反応が上へ食いにくるのか、浮いた反応が追いかけてくるのか……探見丸を見ながら答えを探していく松本さん

トル上げてマダイを探す。すると、再び舳の竿先が突っ込んだ。

手慣れた電動ポンピングで浮かせたのは鮮やかな朱色の1キロ級のマダイ。フグを始めとしたエサ取りと思っていた反応に合わせて食わせた。

しかしそれがパターンというわけではなく、その後は底周辺の魚影をじっくりと浮かせる展開になる。

そして8時過ぎ、明らかに大魚と思われる引きが訪れる。激しく首を振り、舳が絞り込まれ、ドラグを滑らせたフォースマスター600のカウンターは70メートルを超えた。

「でかいよ。間違いない」

疾走を受け止め攻守交代、ヤリトリを始めたとき、それまで圧倒的だった重さが抜けた。根ズレによるハリス切れだ。

「魚の勝ちです……悔しいなあ」

松本さんも船長も、あれは大ダイだったと語る強烈な引き。そのインパクトは、昼までに中、小ダイを追加しても消えることはなかった。

「悔しいなあ。午後もやりませんか」

いつも後ろ髪を引かれる松本さんだが、この日ほど悔しそうな姿はない。

「僕はけっこう大ダイを逃してます。でも、だから飽きないし、楽しいんです。探見丸を駆使したコマセダイはゲーム的だと思いますが、絶対に攻略やクリアがない自然相手のゲーム。だから、面白すぎて、やめられないんです」

ちなみに、探見丸を見ながらブツブツと言っている松本さんの呟きは、独り言ではなく「自然との対話」。つまり、松本流・コマセダイの作法である。